

児童発達支援又は放課後等デイサービス事業に係る自己評価結果公表用

公表日：令和元年 9月 1日

事業所名：児童デイサービスあかりの家

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
環境・体制整備	1 利用定員に応じた指導訓練室等スペースの十分な確保	支援の中で必要となるスペースについては確保できている。身体を使った遊びや運動をする場合には、グラウンドに出て行うようにしている。	1. はい 12 2. どちらともいえない 8 3. いいえ 1 4. わからない 0	現状の中で、その時点で、最良の環境を整える
	2 職員の適切な配置	指定基準を上回る職員数を配置をしている。	1. はい 17 2. どちらともいえない 2 3. いいえ 0 4. わからない 2	こどもたちの支援に必要な人員配置を引き続き維持していく
	3 本人にわかりやすい構造、バリアフリー化、情報伝達等に配慮した環境など障害の特性に応じた設備整備	シンプルな環境にし、個々にとってわかりやすく伝える工夫には心掛けている。	1. はい 14 2. どちらともいえない 3 3. いいえ 2 4. わからない 4	現状の中で、その時点で、最良の環境を整える
	4 清潔で、心地よく過ごせ、子ども達の活動に合わせた生活空間の確保	不快さを感じるような環境にはならないように努力はしている。快適さを保証できる十分な広さは確保できているとは言い難い。	1. はい 19 2. どちらともいえない 2 3. いいえ 0 4. わからない 0	現状の中で、その時点で、最良の環境を整える
業務改善	1 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)への職員の積極的な参画	意見を交えるような機会は作っているが、不十分である。		意見交換の機会を最大限確保するように努力する
	2 第三者による外部評価を活用した業務改善の実施	自己評価、法人内他事業所目線での評価はしている。外部評価ということではできていない。		今後、第三者による評価については検討していく
	3 職員の資質の向上を行うための研修機会の確保	月に一度は、支援検討会的な内部研修をするようにしている。外部実施の研修会に参加するような人的な余裕はほぼないため、事業所内研修となっている。		引き続き事業所内での専門性の向上を目的とした研修を実施していく
適切な支援の提供	1 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上での児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画の作成	こどもと保護者さんのご希望を聞きながら、ご希望が現実と乖離しすぎないように客観性を大切にし、支援計画を立てるように心がけている。また、今の課題だけではなく、将来のイメージを一緒に考えながら、適切な目標を見出すようにも気を付けている。	1. はい 30 2. どちらともいえない 1 3. いいえ 0 4. わからない 0	引き続き丁寧な支援が行えるように準備していく
	2 子どもの状況に応じ、かつ個別活動と集団活動を適宜組み合わせた児童発達支援又は放課後等デイサービス計画の作成	個々、抱えている課題が違うように、活動や内容についてもそれぞれが違うということが前提であると考え、必要な支援の内容、方向性について示すようにしている。	1. はい 30 2. どちらともいえない 0 3. いいえ 0 4. わからない 1	事業所の理念として掲げる個別療育を大切にしながら、その中で個別的課題としての集団活動が必要であれば組み合わせて支援を行う
	3 児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画における子どもの支援に必要な項目の設定及び具体的な支援内容の記載			引き続き丁寧な支援が行えるように準備していく

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容	
適切な支援の提供 t (続き)	4	児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画に沿った適切な支援の実施	支援計画に沿った方向性の中で支援している。個別的には状況に変化があれば、支援計画を前倒して更新し、支援を組み立てている。	1. はい 28 2. どちらともいえない 1 3. いいえ 0 4. わからない 2	引き続き丁寧に支援をしていく
	5	チーム全体での活動プログラムの立案	個別支援・対応を行う事業所と考えているため、経過や目標設定等のチーム内共有はしているが、全てのプログラムの立案をチームで行うということはしていない。		それぞれの子どもに最も必要なプログラムの立案を、最も適当な支援者が組み立てる考え方は継続していく
	6	平日、休日、長期休暇に応じたきめ細やかな支援	支援の方向性や内容は変えていない。しかし、効果的で有意義な支援ができるように、利用時間等の配慮には心掛けている。		時間や状況ではなく、個別に必要な設定を重視し組み立てていく
	7	活動プログラムが固定化しないような工夫の実施	固定化しないための工夫はしていない。方向性の中で、必要な支援をしていくことがメインで、固定すべきかどうかを、個々の状況や状態、方向性の中で決めるようにしている。	1. はい 22 2. どちらともいえない 4 3. いいえ 0 4. わからない 5	個別に必要な設定を重視し組み立てるため、固定化の必要な場合、避ける場合を吟味し組み立てる
	8	支援開始前における職員間でその日の支援内容や役割分担についての確認の徹底	朝に朝礼的に確認をする場を設けている。途中出勤の職員にも伝わるように、連絡ノートで申し送るようにしている。		現状を維持しながら、さらにより良い意思疎通ができる仕組みを検討していく
	9	支援終了後における職員間でその日行われた支援の振り返りと気付いた点などの情報の共有化	必要なことについては共有する場は設けている。		更に深い議論ができる環境を整えられるように、時間確保を含めた業務整理を検討していく。
	10	日々の支援に関する正確な記録の徹底や、支援の検証・改善の継続実施	記録は毎回丁寧に記すようにしている。それらを元に、半年に最低1回は、支援の効果を検証するようにしている。		現状維持していく
	11	定期的なモニタリングの実施及び児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画の見直し	基本的に半年に1回の支援計画の更新を行うため、モニタリングについても聞き取りと検討の時間を確保している。		現状維持していく

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容	
関係機関との連携	1	子どもの状況に精通した最もふさわしい者による障害児相談支援事業所のサービス担当者会議への参画	可能な限り適切な者が参加するようにはしているが、実情としては難しい。支援を担当するものが参加することが望ましいが、会議時間が児童の受け入れ時間であり、支援担当者は参加しにくく、児童発達支援管理責任者だけが主に参加している。	可能な限り参画し、支援チームの連携を図っていく	
	2	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援の実施			
	3	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制の整備			
	4	児童発達支援事業所からの円滑な移行支援のため、保育所や認定こども園、幼稚園、小学校、特別支援学校(小学部)等との間での支援内容等の十分な情報共有	少しずつ情報共有する場面が増えてきているが、まだまだ不十分な状況。現場レベルでの努力だけではなく、制度として国レベルで通達していることがもっと浸透するように周知してもらいたい	大きな課題であり、重要な課題と認識している。引き続き努力する。	
	5	放課後等デイサービスからの円滑な移行支援のため、学校を卒業後、障害福祉サービス事業所等に対するそれまでの支援内容等についての十分な情報提供、	経過や支援の内容等を整理し、端的に申し送れるように準備している。しかし、移行先が求めない場合もあるため、一方的な申し送りが支援の妨げにならないかどうかを考慮している。	こどもたち、移行先の事業所さんにとって最良と考えられるような繋ぎ支援を引き続き行っていく	
	6	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携や、専門機関での研修の受講の促進	スムーズな連携については難しい(専門機関さんの抱える業務量が多すぎる)が、必要性や緊急性によってしっかりと繋がれる体制はある。研修受講は難しい現状。	センターの方向性や意思が重要である。しっかりと意見交換できる環境を作り、こどもたちにとって必要な連携を行っていく	
	7	児等発達支援の場合の保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、放課後等デイサービスの場合の放課後児童クラブや児童館との交流など、障害のない子どもと活動する機会の提供	積極的な交流は設定として考えていない。住まいのある地域、所属する学校等で、本来は行うべきことという風に考えている。	1. はい 8 2. どちらともいえない 4 3. いいえ 5 4. わからない 14	事業所としての交流は引き続き考えていない。こどもたちが所属園の中で生き生きと過ごせるための手立ては所属園と協力しながら考えていく。
	8	事業所の行事への地域住民の招待など地域に開かれた事業の運営	地域の方との交流を行うような機会が設定されていない。しかし、近所を散歩したり、買い物に出かけたりしたりする際に、言葉をかけ合えるような繋がり、交流はある。		現状の中で、地域の方と顔を見合わせご理解頂ける努力をしていく

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
保護者への説明責・連携支援	1 支援の内容、利用者負担等についての丁寧な説明	利用開始時、支援内容などの変更が行われる場合は、説明を行うようにしている。	1. はい 30 2. どちらともいえない 0 3. いいえ 0 4. わからない 1	現状を維持していく
	2 児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画を示しながらの支援内容の丁寧な説明	半年に1度の更新時に説明をするようにしている。	1. はい 31 2. どちらともいえない 0 3. いいえ 0 4. わからない 0	現状を維持していく
	3 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対するペアレント・トレーニング等の支援の実施	ペアレントトレーニングと言えるような支援は行っていない。それぞれのご家庭やご家族の姿勢に応じて着眼点、具体的対応方法の助言、家庭での親子関係の再構築を狙った支援の設定などは行っている。	1. はい 21 2. どちらともいえない 5 3. いいえ 1 4. わからない 4	現状を維持していく
	4 子どもの発達の状況や課題について、日頃から保護者との共通理解の徹底	保護者さんの受け止められる状況かどうかを確認し、可能な限り共通理解を行うようにしている。	1. はい 29 2. どちらともいえない 2 3. いいえ 0 4. わからない 0	保護者さんの受け止めができる状況かどうかの見極めが大切で、そういったことを抜きに必要性だけで共通理解を図ることは保護者さんを追い込むこともあるため慎重に扱う課題であると考えている。
	5 保護者からの子育ての悩み等に対する相談への適切な対応と必要な助言の実施	かなり力を入れて行っているつもりである。	1. はい 29 2. どちらともいえない 1 3. いいえ 0 4. わからない 1	現状を維持していく
	6 父母の会の活動の支援や、保護者会の開催による保護者同士の連携支援	実施していない。	1. はい 5 2. どちらともいえない 6 3. いいえ 6 4. わからない 14	それぞれにお住まいの地域や所属で行うことが望ましいと考えている
	7 子どもや保護者からの苦情に対する対応体制整備や、子どもや保護者に周知及び苦情があった場合の迅速かつ適切な対応	苦情への対応体制については整備されている。苦情への対応については、関係者からの事実確認等から始まり、迅速かつ丁寧に行うようにしている(スピード感については、立場によって感じ方が違う)	1. はい 26 2. どちらともいえない 3 3. いいえ 0 4. わからない 2	現状を維持していく
	8 障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮	考えられる配慮は行うようにしている。身体障害等によって専門的な介助がいる場合は、他の機関に相談し助言、援助をもらっている。	1. はい 31 2. どちらともいえない 0 3. いいえ 0 4. わからない 0	現状を維持していく
	9 定期的な会報等の発行、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報についての子どもや保護者への発信	活動の概要、予定などの情報は、年3回発行の機関紙にてお知らせしている。	1. はい 31 2. どちらともいえない 0 3. いいえ 0 4. わからない 0	現状を維持していく

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容	
	10	個人情報の取扱いに対する十分な対応	取り扱いについては法令遵守するように努めている。個人情報了他機関と共有する場合は、保護者さんに確認を行い、了解がない場合は個人情報は外に出さないようにしている。	1. はい 30 2. どちらともいえない 0 3. いいえ 0 4. わからない 1	現状を維持していく
非常時等の対応	1	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルの策定と、職員や保護者への周知徹底	各種マニュアルは作成済み。事業所内職員への周知は行っているが、活動時間が限定的であり、保護者さんに周知する必要性を感じないため、実施していない。	1. はい 19 2. どちらともいえない 3 3. いいえ 1 4. わからない 8	保護者さんのご希望を聞いてみて、周知を求める意見が多いようであれば、そのように対応していきたい。
	2	非常災害の発生に備えた、定期的に避難、救出その他必要な訓練の実施	避難方法の確認、火災発生時のための消火訓練は年間3回ほど実施している。	1. はい 10 2. どちらともいえない 5 3. いいえ 1 4. わからない 15	現状を維持していく
	3	虐待を防止するための職員研修機会の確保等の適切な対応	現状としては、通達等で出てきている虐待防止に関する書面などで、考え方や知識を学んでいる。		研修等へ参加し、更に意識を高める努力を行う
	4	やむを得ず身体拘束を行う場合における組織的な決定と、子どもや保護者に事前に十分に説明・了解を得た上での児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画への記載	想定できる状況について、この場合はこうする可能性があるということを事前面談の段階で説明し、了解を得て支援を行っている。支援計画とは別に身体拘束の関する確認文書を作成し、保護者さんと確認するようにしている。		現状を維持していく
	5	食物アレルギーのある子どもに対する医師の指示書に基づく適切な対応	食事提供はない。		食事提供開始した場合に遵守する
	6	ヒヤリハット事例集の作成及び事業所内での共有の徹底	日々の申し送りの中で確認。連絡ノート、日誌等で記録しているが、まとめたものはない。		気付いた事柄をまとめ、適宜改善する努力を行う